
(精神的に)最弱な男の(周りが)最強伝説

片岡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

（精神的に）最弱な男の（周りが）最強伝説

【Nコード】

N5336Z

【作者名】

片岡

【あらすじ】

ヤンデレなくしてこの作品は成り立たないと言っても過言ではないでしょう。苦手な方は注意。後から登場人物がほとんど病みます。どうしたのお前ら。

此方もモバゲーのほうから引っ張ってきました。加筆修正を加えてありますが、見苦しい点、矛盾点などがありましたら是非ともご一報を。

よくあるような勘違い小説です。主人公と周りの考えが食い違っているあれです。

勘違い要素は後半に近付くにつれ消え失せます。

ブローグ

何処？ 何処！？ 何処に行ってしまったのにいさま！！

暗い暗いお部屋を見渡しても其処には何もなくて、にいさまがいつも使つていらつしやった毛布だけが寂しく畳まれ置かれていた。毛布を抱き締め、思いきり息を吸う。ああ、にいさまの香りがする。優しくて甘くて、私の大好きなにいさまの香り。

私の大好きなにいさま。私だけのにいさま。私だけの至高の宝石。逃がさない……。

心の中でそう呟いて、くすりと笑う。

絶対に逃がさない。逃がしてたまるものか。

あの宝石は、私だけのものだもの。きらきらきらきら、あの輝きを見れるのは私だけで良いの。誰にも渡さない。

ねえ、にいさま。知つていらつしやるよね。私、隠れん坊は得意なの。

「シュウカ……、行つてきて」

私の隣で青褪めていたシュウカに命じると、シュウカはキツと鋭く私を睨みつけた。なあに、その目。気に喰わない。決り取つてあ

げようか。

「にいさまを見つけたら、すぐに知らせてね」

「……命令するな！ 私に命令していいのはあのお方だけだ！」

ねえ、喚かないでちょうだいよ。私、五月蠅いの、きらあい。きらい、きらい、だいつきらい。おまえ、死んでしまえば良いのにねでも、私、優しいもの。殺さないでいてあげるね。あなたを殺すのはにいさまがお戻りになられてから。

にいさまの御前で、シュウ力を縊^{くひ}り殺してやるの。にいさま、そうしたらきつと私だけを見て下さるわ。

「煩いのよ……。早く、行つて？」

あの子がどうなつても良いのか。シュウ力を抱き締めてそう囁いてやれば、大袈裟なくらいにその肩は揺れた。

ねえ、嫌よね。だってあなた、馬鹿みたいにあの子のこと、大切に思っているものね。あの子、もうお前を見てくれないのに。

シュウ力は小さく舌打ちをして、姿を消した。

ふふ、うふふ、と抑えきれない笑みが零れる。

「ふふ……。すぐに、見つけて差し上げるね、にいさま」

だから、待っていて。何処にも行かないで。誰のものにもならな

いで。私だけを思っていて。

「あなたは、私だけのものだから、ね？」

そう口に出すことで、にいさまが本当に私だけのものになって下さるような気がする。だから、私、嘘を吐くのよ。いつかその嘘は本当になるけれど。

「ふふふ……、あっははははは！」

プロローグ（後書き）

後からとかそんなこと無かった。最初っから病んでた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5336z/>

(精神的に)最弱な男の(周りが)最強伝説

2011年12月17日23時46分発行